

氏名	ダニシマズ イディリス Danismaz Idiris
学位(専攻分野)	博士 (地域研究)
学位記番号	地博第53号
学位授与の日付	平成20年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻
学位論文題目	トルコのスーフイズムにおける神秘的宇宙論とクルアーン解釈 ——イスマーイル・ハック・ブルセヴィーの『存在の五次元説』と『明証の魂』 をめぐって——
論文調査委員	(主査) 准教授 東長 靖 教授 小杉 泰 准教授 田辺 明生 准教授 帯谷 知可

論文内容の要旨

イスラーム世界において、形而上学的思索によって精神的内面性を深める一方、民衆に道を説き広める役割を果たしたもののとして、スーフイズム（イスラーム神秘主義）が挙げられる。本学位請求論文は、トルコにおけるスーフイズムをテーマに、著名なスーフイー、イスマーイル・ハック・ブルセヴィー（1725年没。以下ブルセヴィー）を取り上げ、彼の神秘的宇宙論とクルアーン解釈（タフスィール）の関係性とその特徴を論じるものである。

申請者の問題意識は、次の二点にまとめることができる。第一は、ブルセヴィーの思想が実際の活動とどのように関わっていたのかという問いであり、第二は、学を中心をなす神秘的宇宙論とクルアーン解釈という二つの分野における思想が彼の中でどのように関係していたのかという問いである。

本論文は序論・結論と五章から成り立っている。第一章は、ブルセヴィーの生涯を一次資料を元に描き出すとともに、彼の数多い著作を分類・整理して紹介している。第二章から第五章までは、彼の思想の分析に充てられている。申請者は、ブルセヴィーの思想を神秘的宇宙論とクルアーン解釈に分け、第二章を神秘的宇宙論の分析に、第三章から第五章をクルアーン解釈の解明に充てている。

第二章は、『存在の五次元説』という著作を元に、ブルセヴィーの神秘的宇宙論について論じる。第三章は、クルアーン解釈という学問に関する包括的な情報を提示したうえで、スーフイズムのクルアーン解釈に詳しい説明を与えている。第四章は、オスマン帝国期のクルアーン解釈を概観したうえで、ブルセヴィーによるクルアーン解釈の書『明証の魂』について詳細に検討し、その特徴を明らかにしている。第五章は、『明証の魂』の中の具体的なクルアーン解釈の事例を分析し、申請者の問題意識に対する解答を導いている。

その解答は以下のとおりである。まず、上述の第一の問題意識に関して、申請者は、ブルセヴィーの思想は単なる形而上学的な営みにとどまることなく、より倫理的・実践的な側面を伴っていたことを指摘する。ここで倫理的解釈と呼ぶものが理念レベルに相当するのに対して、実践的解釈は、その理念をいかに実践に移して、一般信徒の宗教生活へ応用するかが課題となる。たとえばブルセヴィーは、神と比較すれば人間は取るに足りない存在であることを倫理的なレベルで認めたとうえで、読者に宗教的实践を呼びかけ、滅びを逃れるために、神における不死不滅へ至ることの重要性を指摘する。また彼は、法学者による犬を不浄と見なす見解と異なって、犬を称賛する解釈を行っていた。その解釈の背景には、事物を、善や悪といった価値評価と無縁な純粋な存在物として捉えるスーフイーの存在観がある。これが、倫理的解釈の側面である。そこで得られた倫理的な理念を実践するために、彼は犬の持つすぐれた性格を人間も持つべきであると説く。こういった彼の態度は、スーフイー教団のシャイフ（導師）として人々を実際に導いていたことと密接に結びついているのである。

次いで上述の第二の問題意識に関しては、宇宙論とクルアーン解釈学はブルセヴィーの中では照応していたと結論づける。両者を通底するのは、倫理的・実践的解釈であるが、その背景にはアッラーを知るというスーフイーの目的がある。スーフ

イーは、常にこの目的をもって宇宙とクルアーンを観察する。換言すれば、アッラーを知るという目的で、宇宙とクルアーンを冥想すればするほど、両者についての理解が深まれば深まるほど、そこで得られた知が二つの領域に同時に通用するようになってくる。クルアーンと宇宙はともに、神の属性の現れであるため、スーフィーにとって、クルアーンと宇宙がアッラーを知るための道具となるのである。

論文審査の結果の要旨

本論文は、トルコにおけるスーフィズムをテーマに、著名なスーフィー、イスマーイル・ハック・ブルセヴィー（以下ブルセヴィー）を取り上げ、その思想を貫く特徴を明らかにするとともに、思想と活動の関係に迫ろうとするものである。

ここでトルコというのは、オスマン帝国の中心地であると同時に今日のトルコ共和国の大半を占めるアナトリア（小アジア）を指している。イスラームといえば戒律の厳守がすぐに思い浮かべられ、シャリーア（イスラーム法）の施行がその特徴であるが、他方、トルコのイスラームはスーフィズムを核として形成されてきたとしばしば指摘されている。イスラームの持つ、一般にあまり知られていない一つのあり方を示すために、トルコのスーフィズムを取り上げることは意味がある。また、世俗主義国家であるとはいえ、トルコにおいてスーフィズム・タリーカが隠然たる勢力を持っていることは周知の事実であり、トルコ研究にとっても、このテーマは基礎研究として重要である。

現トルコ共和国ではスーフィズムおよびタリーカの活動は禁じられているため、現代トルコの思想・運動そのものを研究対象に取り上げることは危険が伴う。本論文が18世紀の思想家であるブルセヴィーに焦点を合わせているのは、彼の絶大な影響力とともに、このような研究環境にもよるところが大きい。もっとも、申請者はこの思想家の名を冠した宗教施設を中心とする現地フィールドワークをも実施し、その成果は本論文にも部分的な形で活かされている。

申請者は、ブルセヴィーの生涯と著作を丹念に跡づけた後、神秘的宇宙論とクルアーン解釈という二つの思想分野を対比させる形で検証している。それぞれの分野の代表作を取り上げ、詳細に内容を検討する中から、申請者はブルセヴィーの思想の二つの特徴をあぶりだしている。

その一つが、彼の思想は単に書齋の中の営みではなく、自らの弟子や、さらにはその先にいる多くの民衆を教化し、導こうとするものであるという指摘である。申請者はこの態度を、倫理的・実践的解釈という概念で説明している。すなわち、神秘的宇宙論といった極度に抽象度の高い議論においてすら、ブルセヴィーはいかに生きるべきかという倫理的な問題に引きつけて考察したうえで、ここで得た結論を人々が実践するように仕向けていると指摘する。このことは、ジェルヴェティー教団というスーフィー教団の師として実際に弟子の指導にあたっていたのみならず、長い年月にわたって一般民衆の前にクルアーン解釈の説教を続けたという彼の活動と即応するものである。

もう一つの特徴は、神秘的宇宙論とクルアーン解釈という、一見かけ離れて見える二つの学問分野に相通ずる目的に関するものである。申請者はこれを、神を知ること（マーリファ）という概念で説明する。神の顕現としてこの世を理解する神秘家ブルセヴィーにとっては、この宇宙も、神の言葉であるクルアーンも、ともに同じ神の現れなのであり、したがって宇宙を探究することもクルアーンを解釈することも、ともに神を知るために行われる業である。しかも、この目的に到達するための二つの思想のいずれにも、上述の倫理的・実践的解釈が深く関係している。表面的な乖離とは裏腹に、神秘的宇宙論とクルアーン解釈は照応関係にあることを、申請者はさまざまな事例を用いて立証することに成功している。

本論文は、下記の三点において高く評価される。第一に、まだ研究が端緒についたばかりのオスマン帝国におけるスーフィズム・タリーカ研究において、最も著名と言っても過言ではないブルセヴィーに関する総合的研究を行ったことが挙げられる。ブルセヴィーに関する先行研究は比較的多いが、その多くが翻訳や紹介といったレベルにとどまっているなか、本格的な思想研究を行っている点で本論文は評価に値する。第二に、従来関連づけて考察されることのなかった二つの学問分野（神秘的宇宙論とクルアーン解釈）に注目し、その照応関係を立証してみせたことである。精密な文献学的手続きをふんだ豊富な事例による立論は説得力がある。第三に、従来哲学的に検討されることの多かった神秘家の思想を、より一般的な倫理のレベルで捉え直し、さらにはそれを指導者としての活動と結び付ける形で、実践的に提示している点が挙げられる。一握りの思想家たちとの議論としてではなく、広く民衆に開かれた身近な存在としてのスーフィズム像を提示するのに成功していると言える。

以上のように本論文は、綿密な資料読解に基づいた事例研究でありながら、これまで見られなかった新しい視点を持ち込むことにも成功しており、トルコ・スーフィズム研究の進展に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成20年1月23日、論文内容とそれに関連した事項について試問した結果、合格と認めた。